

課題への興味と目標志向性 との関係について

小 方 涼 子

興味に関する心理学的研究は、内発的動機づけの中で論じられることが多い。Hidi (1990) は興味を個人的興味 (individual interest) と状況的興味 (situational interest) からとらえている。個人的興味とは、ある対象や行動に対して、比較的長期間にわたって持続されるものである。一方、状況的興味とは、状況刺激からもたらされるものとみなされている。また、Schiefele (1991) は個人的興味をさらに2つの要素から説明している。感情に関連する要素 (feeling-related valences) は、ある事柄に対する楽しさや関与度の高さという形で示される。価値に関連する要素 (value-related valences) は、その事柄が個人にとって重要であるかどうかということにより表される。Rathunde (1993) も同様の分類をしており、楽しさや関与度の高さを自発的興味 (spontaneous interest) と考え、また活動の重要性を目標指向的興味 (goal-directed interest) としている。

個人の抱く目標志向性やその強さは、状況に応じて変化したり、課題ごとに異なるものである。例えば、勉強するという行動ではあっても、受験を控えた時期と、受験とは無縁の時期とでは、個人が何を目標とするかは異なってくる (e. g., 竹綱ら, 1995)。そして、活動に対してどのような目標志向性を抱いているかが、その後の行動にも異なる影響を及ぼす。目標

志向性とその後の行動や方略との関係性を調べた研究は多くなされている。しかし、目標指向性に影響を及ぼすと想定される要因については、検討がなされていない。個人の行動には、学級雰囲気などの背景的な要因が影響を与えていることから (e. g., Ames & Archer, 1988)、個人をとりまく環境を考慮に入れて、目標志向性に影響を与えると考えられる要因についてとらえる。

その要因の1つとして、まず、課題への興味を挙げる。これには、前述の通り、課題を達成することの重要性といった、課題の価値が含まれる。課題の価値は、過去の経験、社会的なステレオタイプ、その活動を達成することの重要性や困難さについての両親や教師、仲間からの情報によって作り出されると指摘されている (Eccles et al., 1984)。このように、課題への達成重要性には、個人をとりまく環境や他者からの影響が強いことが窺える。また、課題への興味には、課題の楽しさを追求する自発的興味もあり、これも、過去の経験や他者観察による影響が考えられよう。

そして次に、課題に対する評価 (evaluation) を取り上げる。活動が客観的に評価される機会の有無も、どのような志向性を抱くかということの指標になりうる。他者比較が顕在化されれば、パフォーマンス目標を抱きやすく、反対に、学習の進み具合をフィードバックすれば、マスタリー目標を追求しやすくなる (Ames, 1992; Blumenfeld, 1992)。特に学校場面では、社会的比較による評価が強調されることが多いだろう。今回は、課題の遂行結果に着目した評価に焦点をあてる。

本研究では、大学生を対象とし、大学生活を送る上で営まれる主な活動として、学業、クラブ (サークル) 活動、趣味の3つを取り上げる。そして、これらの活動のそれぞれについて、課題への興味 (達成重要性和自発的興味)、課題の評価が目標志向性に与える影響を検討する。

方 法

被験者：理学，工学，農学，法学，経済学，人文学，教育学を専攻する大学生 255 名。

質問紙：課題への興味は，Schiefele (1991) や Rathunde (1993) にもとづき，達成重要性と自発的興味という 2 つの下位尺度から構成された。達成重要性は「課題に必要な技能が上達することに価値をおく」「課題に必要な能力をもつことは重要である」「課題が達成されることに価値をおく」の 3 項目からなり（信頼性係数は .77～.80²⁾），自発的興味は「課題は非常に興味深い」「課題を行っている時、時間を忘れてしまう」「課題に対する関与度は高い」の 3 項目から構成された（信頼性係数は .60～.80）。課題評価は，遂行結果の評価という観点から項目が構成され，それは「遂行結果は明確に示される」「遂行結果は他者に評価される機会がある」の 2 項目であった（信頼性係数は .58～.74）。目標志向性は習熟志向性，承認志向性，成績志向性の 3 因子について，それぞれ 5 項目で測定を行った（項目については，資料を参照のこと）。習熟志向性の信頼性係数は .76～.77，承認志向性は .78～.84，成績志向性は .78 であった。

手続き：学業，クラブ（サークル）活動，趣味という 3 つの活動について，上述の質問項目に「非常にあてはまる」「かなりあてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」の 5 件法で回答を求めた。

結 果

課題ごとに、達成重要性、自発的興味、課題評価のそれぞれを平均値で高低の2群に分け、目標志向性を従属変数とした3要因の分散分析を行った。

学 業

習熟志向性について分散分析を行った結果、達成重要性と自発的興味において有意な主効果がみられた(達成重要性： $F(1,241)=25.57, p<.01$ ；自発的興味： $F(1,241)=30.88, p<.01$)。学業の達成を重要と感じ、興味を抱いて学業に取り組んでいる人は、新しい事柄を知ることに対する志向性が高いことが示された。承認志向性では、達成重要性と自発的興味(達成重要性： $F(1,241)=6.02, p<.05$ ；自発的興味： $F(1,241)=4.39, p<.05$)、そして、課題評価についても有意な主効果がみられた($F(1,241)=5.05, p<.05$)。成績志向性では、達成重要性、自発的興味、課題評価において有意な主効果があった(達成重要性： $F(1,241)=7.51, p<.01$ ；自発的興味： $F(1,241)=7.16, p<.01$ ；課題評価： $F(1,241)=3.88, p<.05$)。達成重要性と課題評価については、高群が低群よりも高い志向性を示した。学業達成を重要視し、学業は客観的な評価がなされると考えている人は、他者からの承認や学業成績を気にすることが明らかにされた。つまり、これらの傾向が強いと、学習に対してある目標を抱くことが示唆された。自発的興味については、習熟志向性は学業への興味が高いほど、志向性を高くもっているのに対して、承認志向性と成績志向性は、学業に対する興味が低いほど、それぞれの志向性を強くもっていることが明らかになった。学業に対して興味深く接している人は、習熟志向性は高く、そし

Table 1 学業での達成重要性, 自発的趣味, 課題評価の高低群における目標志向性の平均値および標準偏差

		習熟志向性	承認志向性	成績志向性
達成重要性	高	17.29 (3.89)	12.29 (4.62)	15.20 (4.57)
	低	14.89 (3.94)	10.95 (4.15)	13.62 (4.46)
自発的興味	高	17.77 (3.55)	11.34 (4.27)	14.01 (4.45)
	低	14.54 (3.97)	12.07 (4.65)	15.00 (4.68)
課題評価	高	17.10 (3.64)	12.53 (4.63)	15.30 (4.73)
	低	15.59 (4.27)	11.10 (4.26)	13.92 (4.40)

Table 2 クラブ活動での達成重要性, 自発的興味, 課題評価の高低群における目標志向性の平均値および標準偏差

		習熟志向性	承認志向性	成績志向性
達成重要性	高	19.82 (3.22)	13.14 (4.48)	13.81 (4.69)
	低	16.19 (4.15)	10.28 (3.68)	10.73 (4.26)
自発的興味	高	19.78 (3.63)	11.83 (4.51)	12.55 (4.35)
	低	16.78 (3.97)	11.82 (4.25)	12.24 (4.35)
課題評価	高	18.96 (3.56)	12.67 (4.47)	13.41 (4.69)
	低	17.31 (4.45)	10.95 (4.08)	11.33 (4.58)

て、承認志向性と成績志向性は低く抱くことが指摘された。なお、いずれの志向性においても有意な交互作用はみられなかった。達成重要性, 自発的興味, 課題評価の高低群における目標志向性の平均値が Table 1 に示してある。

クラブ活動

分散分析を行い、目標志向性における達成重要性, 自発的興味, 課題評価, それぞれの高低群の平均値を Table 2 に示した。その結果, 習熟志向性では、達成重要性と自発的興味の主効果がみられた（達成重要性： $F(1,221) = 60.07, p < .01$ ；自発的興味： $F(1,221) = 17.28, p < .01$ ）。承認志

向性では、達成重要性における有意な主効果があった、 $F(1,221)=26.67$, $p<.01$ 。成績志向性では、達成重要性と課題評価の主効果が有意であった(達成重要性： $F(1,221)=26.95$, $p<.01$ ；課題評価： $F(1,221)=5.11$, $p<.05$)。それぞれの高群が低群よりも、高い志向性を示した。クラブ活動の達成を重要とみなしている人は、習熟、承認、成績のすべての志向性を高くもつことが示された。そして、活動に興味を抱いている人は習熟志向性を、活動が評価される機会があると感じている人は成績志向性を抱くことが明らかにされた。なお、いずれの志向性においても有意な交互作用はみられなかった。

趣 味

習熟志向性において、達成重要性と課題評価の主効果が得られ、それぞれの高群が低群よりも志向性を強くもっていることが示された(達成重要性： $F(1,211)=133.39$, $p<.01$ ；課題評価： $F(1,211)=24.97$, $p<.01$)。承認志向性では、達成重要性と課題評価における有意な主効果があった(達成重要性： $F(1,211)=25.38$, $p<.01$ ；課題評価： $F(1,211)=25.46$, $p<.01$)。成績志向性においても、達成重要性と課題評価の主効果が有意であった(達成重要性： $F(1,211)=36.53$, $p<.01$ ；課題評価： F

Table 3 興味での達成重要性、自発的興味、課題評価の高低群における目標志向性の平均値および標準偏差

		習熟志向性	承認志向性	成績志向性
達成重要性	高	21.32(2.86)	11.23(3.93)	11.29(4.22)
	低	15.65(4.48)	8.73(3.81)	8.18(3.64)
自発的興味	高	19.48(4.70)	9.83(4.01)	9.70(3.93)
	低	17.13(4.55)	9.89(4.11)	9.50(4.44)
課題評価	高	19.72(3.98)	11.07(3.80)	10.88(4.36)
	低	15.72(4.91)	7.88(3.68)	7.45(2.85)

(1,211) = 25.33, $p < .01$)。Table 3 にも示してあるように、趣味の達成を目指している人や、この活動が他者から評価されると感じている人は、3つの志向性を強く抱きながら活動に取り組んでいることが指摘された。なお、いずれの志向性においても有意な交互作用はみられなかった。

考 察

課題に対する達成重要性、自発的興味、課題評価が目標志向性に及ぼす影響を調べるために、達成重要性、自発的興味、課題評価のそれぞれを高低の2群に分け、学業、クラブ(サークル)活動、趣味の3つの活動において、3要因の分散分析を行った。その結果、学業ではすべての志向性において、自発的興味の主効果がみられた。習熟志向性では、高群が低群よりも高い志向性を示したのに対し、承認志向性と成績志向性では低群が高群よりも高く、反対の傾向が示された (Figure 1)。習熟志向性に対する自発

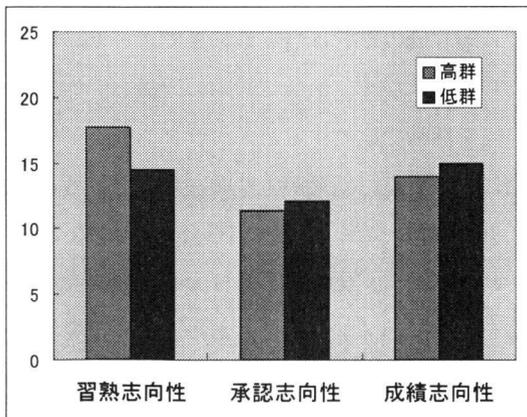


Figure 1 学業での自発的興味の高低群における目標志向性の平均値

的興味の効果は、クラブ活動においても示されている。学業やクラブ活動に対する興味を抱いている人は、学業に従事する際に、新たな事柄を知ることが目的としている。興味をもって課題に取り組むことは、課題ができるようになることが面白いという、課題自体に着目している。一方、学業に興味のない人は、他者からの承認やよい成績をとることを目指している。興味の程度が低いと、他者からの承認を得たり、望ましい結果を出すことにのみ焦点をあてることになるのである。この見解は、クラブ活動や趣味ではみられておらず、学業にのみあてはまるものである。自発的興味を3つの活動で比べると、趣味、クラブ活動、学業の順に興味が高く、学業は他の2つの活動よりも、自発的興味の値が低い ($F(2,705)=81.64, p<.01$)。このように、活動に対する自発的興味が一般的に低いことが、承認志向性と成績志向性を強く抱くことに関係していると考えられる。

学業では、承認志向性と成績志向性において、課題評価の主効果が示された。これらの志向性はパフォーマンス目標と位置づけられ、この目標は他者との比較や他者からの評価を意識する学習目標であることから、遂行結果を意識した課題評価の影響は当然の結果であろう。しかし、この結果は学業に限ったわけではなく、クラブ活動の成績志向性においても示されている。課題評価を活動で比較すると、クラブ活動、学業、趣味の順に高く、クラブ活動において遂行結果がより顕在化すると考えられている ($F(2,704)=34.05, p<.01$)。クラブ活動において評価がなされる場というのは、運動系であれば試合、文化系であれば大会や発表会などが挙げられる。大会などに関心を示さないメンバーは、あらかじめ出場枠から外されることから、試合や大会に出場するメンバーは、ここでよい成績を上げることを目的として活動していると考えられる。しかし、クラブ活動では学業とは異なり、承認志向性に対する課題評価の効果は示されていない。活動が

評価に値するか否かにかかわらず、他者からの承認はあまり意識していないことになる。学業に比べると、クラブ活動は選択肢の幅が広く、また、転部や転科よりも、クラブの変更は容易である。自分に合った活動を探しやすく、つまりは、活動への満足感が高まることになるであろう。活動に対する自己決定感や自律性の強さが、他者からの評価を考慮しないことに関係していると考えられる。

達成重要性が目標志向性に及ぼす効果は、学業とクラブ活動において示された。いずれも、高群が低群よりも高い志向性をもち、課題達成の重要性を感じている人は、学習目標を強く抱くことが明らかにされた。達成重要性は、課題遂行の結果の予測や遂行程度を気にすることとの相関が高いことが示されている (Elliot & Harackiewicz, 1994)。本研究では、達成重要性と目標志向性との関係性が明らかにされ、この結果からも、達成重要性だけではなく、目標志向性の強さが結果期待や遂行過程に影響を及ぼすということが予測されよう (Dweck, 1986)。

趣味においては、達成重要性と課題評価の主効果がすべての目標志向性において得られた。課題への達成を重要と感じ、課題が評価される機会があると考えている人は、それぞれの志向性を強く抱くという結果が示された。Figure 2 と Figure 3 からわかるように、習熟志向性については顕著な傾向が示され、達成重要性が高く、課題評価がなされると感じている人は、趣味へのおもしろみを感じている。しかし、他の2つの志向性については、高低群で有意差が得られてはいるものの、志向性を抱いている程度がかなり弱いことがみてとれる。趣味と一口にいっても、被験者が想定したものはその種類が多岐にわたっていて、一つの活動としてはとらえにくいことが明らかになった。また、習熟志向性においては概して高い値が示されてはいるものの、その一項目である「その活動をすることがおもしろ

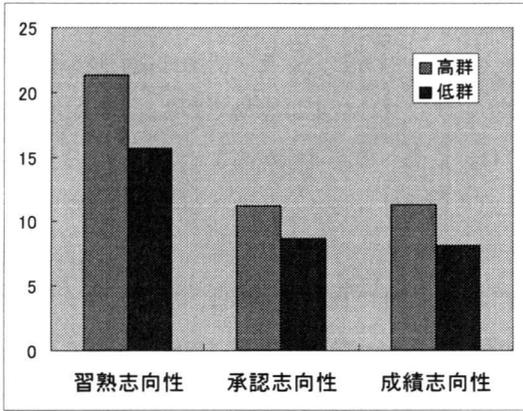


Figure 2 趣味での達成重要性の高低群における目標志向性の平均値

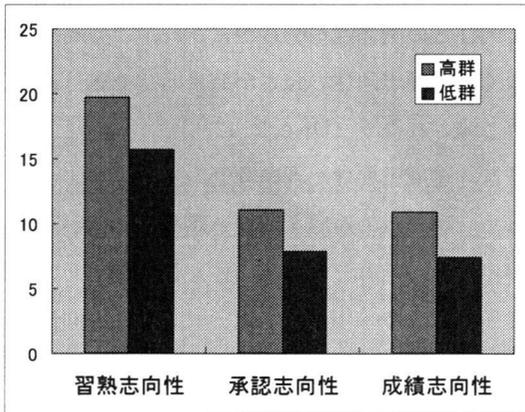


Figure 3 趣味での課題評価の高低群における目標志向性の平均値

いから」にのみ「非常にあてはまる」を示し、それ以外の目標志向性の項目には「全くあてはまらない」を示す人がいた。つまり、趣味に対する目標志向性は、習熟志向性の一部分でしか測定されない可能性があり、趣味をとらえることの難しさを感じる結果となった。

引用文献

- Ames, C. 1992 Classrooms : Goals, structures, and student motivation. *Journal of Educational Psychology*, **84**, 261-271.
- Ames, C., & Archer, J. 1988 Achievement goals in the classroom : Students' learning strategies and motivation processes. *Journal of Educational Psychology*, **80**, 260-267.
- Blumenfeld, P. C. 1922 Classroom learning and motivation : Clarifying and expanding goal theory. *Journal of Educational Psychology*, **84**, 272-281.
- Dweck, C. S. 1986 Motivational processes affecting learning. *American Psychologist*, **41**, 1040-1048.
- Eccles (Parsons), J., Adler, T., & Meece, J. L. 1984 Sex differences in achievement : A test of alternate theories. *Journal of Personality and Social Psychology*, **46**, 26-43.
- Elliot, A. J., & Harackiewicz, J. M. 1944 Goal setting, achievement orientation, and intrinsic motivation, *Journal of Personality and Social Psychology*, **66**, 968-980.
- Hidi, S. 1990 Interest and its contribution as a mental resource for learning. *Review of Educational Research*, **60**, 549-571.
- Rathunde, K. 1933 The experience of interest : A theoretical and empirical look at its role in adolescent talent development. In P. R. Pintrich & M. L. Maehr (Eds.), *Advances in motivation and achievement*. (Vol. 8, pp. 59-98). Greenwich, CT : JAI Press.
- Schiefele, U. 1991 Interest, learning, and motivation. *Educational Psychologist*, **26**, 299-323.
- 竹網誠一郎・鎌原雅彦・青柳賢治・高梨実・庄司奈々枝 1995 生徒の学習目標と学習行動—私立中高一貫校と公立中学の比較—帝京大学文学部紀要 (心理学), **3**,

Abstract

The purpose of this study is to examine the effects of interest and evaluation on goal orientation. Interest was divided into two components: value and spontaneous interest, while goal orientation was classified into three factors: learning, approval and outcome orientation. Subjects were undergraduates (N = 255) and completed a questionnaire, which asked them about three activities: major study, extracurricular and hobby. Results indicated the effects of interest and evaluation on goal orientation in those activities. With the exception of major study, higher in interest and evaluation revealed the stronger goal orientations than lower in those.

Key words: interest, goal orientation, evaluation

脚 注

- 1) 論文の作成にあたり御指導、および、データの収集に御協力いただきました、学習院大学文学部竹綱誠一郎助教授、帝京大学文学部鎌原雅彦助教授に厚く御礼申し上げます。
- 2) 学業、クラブ（サークル）活動、趣味のそれぞれの活動において信頼性係数を算出したため、文中にはその範囲を示してある。

資 料

目標志向性の項目

〈習熟志向性〉

問題を解くことがおもしろいから（学業）・練習を行うことがおもしろいから（クラブ活動）・その活動をするのがおもしろいから（趣味）

実力が伸びたことを知るのがうれしいから

難しいことに挑戦するのが楽しいから

できるようになる（、上達する）ことがおもしろいから（クラブ活動と趣味には括弧内も含む）

新しい解き方や、やり方を見つけることがおもしろいから（学業）・新しい技術や

課題への興味と目標志向性との関係について (小方涼子)

方法を習得することがおもしろいから (クラブ活動と趣味)

<承認志向性>

両親や先生に認められたいから (学業)・先輩や先生、コーチに認められたいから (クラブ活動)・その活動に関わる人に認められたいから (趣味)

両親や先生にしまられたくないから (学業)・先輩や先生、コーチにしまられたくないから (クラブ活動)・その活動に関わる人にしまられたくないから (趣味)

友人にバカにされた(り、非難された)くないから (クラブ活動と趣味には括弧内も含む)

試験 (大会) でよい成績をとると自慢できるから (括弧内はクラブ活動)・よい活動をする自慢できるから (趣味)

自分に実力があることを示したいから

<成績志向性>

成績 (表) をよくしたいから (括弧内は学業)

勉強しないと不安だから (学業)・練習しないと不安だから (クラブ活動)・その活動をしないと不安だから (趣味)

資格 (公認会計士など) をとりたいから (学業)・その活動に関わる資格 (免状など) をとりたいから (クラブ活動と趣味)

試験 (大会や発表会) で友人よりもよい成績をとりたいから (括弧内はクラブ活動と趣味)

試験 (大会や発表会) で悪い成績をとりにたくないから (括弧内はクラブ活動と趣味)

(人文科学研究科 心理学専攻 研究生)